



二葉幼稚園

2023年 園のたより10月



10月の聖句

ひつじは ひとりのひつじかいにみちびかれ
ひとつのむれになる ヨハネ10章16節

10月のさんびか

ちいさいひつじが こどもさんびか改訂版55



つながって

夏休み、ご家庭でたっぷり充電したふたばっこが期待とちょび不安を抱えて戻ってきました。祖父母に会ったり自然と戯れたり祭りや花火大会に行ったり家族でのんびり過ごしたり色々な人や自然、物との繋がりを感じたことでしょう。園では1日1日生活のリズムを思い出し保育者や友達と過ごす楽しさを感じふたばっこに笑顔が増えてきました。保育見学に参加した小さな子ども達を見るとどの学年もワイワイ駆け寄り歓迎する姿が何とも微笑ましく見学者も思わず笑顔になっていました。こうした出会いから新たなふたばっこがつながることを嬉しく思います。

先日実施したモグモグほっこりデーの試食会では、生産者の思いを調理担当の岩本さんに話して頂いたあと愛情塩むす(新米)とふわふわ豆腐と新芋のほんの甘いお味噌汁を皆で頂きました。食べ始めると・・・まじ静かだったこと！2歳児達がちゃ〜んと座って見事に集中して食べていました！「おいしい！」を物語るまじからた語。お味噌汁を一匙一匙すくう口に運ぶ手が止まらせせん！おむすびも美味すぎて保護者の分までぺろりと平らげ満足げ。短い時間ではありましたが幸せな交流のひとつでした。モグモグのおいしさを実感している年長児が「おいしいよ、たべてね、ほっこり(ほっこり)でー」とカラフルなイラストとともに楽しんで描いたランチヨマットも愛らしく好評でした！

新米と言えば秋は稲刈り。昔は隣近所親族総出で稲刈りをし、乳飲み子は籠に入れられ、泣けば誰彼とな声をかけ、乳をあげ、かわりばんこに抱き上げ、あやしたものだ聞いたことがあります。豊かな自然、豊かなつながりの中で子ども達は大らかに育つたのでしょ。

この季節、例年読む絵本に「とべ ばった」という生命感溢れる力強い作品があります。虫の好き嫌いに関わらず、思わず子ども達も惹き込まれる秀作です。その作家田島征三氏の絵本「た」。(佼成出版社) たから始まる命の営みを描いた作品。癌との闘病、一筆一筆、一枚一枚に込められた作者の息吹が、エネルギーが胸に迫ってきます。絵本の言葉は「たがやす、たねまく.. たましくさだつ、たいへん、たたかう たわわにみのる... たよる たすける たすけあう たいせつ... たのしみ...」と続きます。美味しい米を作るには、夏に田んぼの水を抜き、根が強くなるように土中に酸素を補給して根腐れを防ぎ、根の活力を高める中干や間断かん水をするそうです。でも、やりすぎは禁物。自然も人の育ちも生きるためには、似たようなことが言えるのですね。何事も「よかれ」と思っていたことが、はっと気づくといつの間にかやりすぎてしまったなんてこともありますね。稲作のように時にはただ見守ることも必要で、見えない根っここの育ちをおもんばかりほどよい関係、環境作りが大切だと気づかされます。そして人と人が繋がって、頼る、助ける、助け合い、人と人との間で育まれる命。生きていく上で大事なことが詰まった絵本「た」。読むと私は二葉と重なるのです。

人と人が繋がって、毎日ふたばっこ達を穏やかな眼差しで見守って下さる皆さまに支えられ、4年振り全学年でのふたばっこフェスタに向けて、子ども達は互いに励まし合っています。今日は早朝の雨をまねのけ、光輝く空の下、リハーサルを時間半。途中疲れを感じながらも個々に思いを抱き、胸を張って行進したり、ダンゴ虫に変身したり旗を振って踊ったりパラバルーンで力を合わせたり自分の場所から友だちを応援したり...。出会った頃と数年間の歩みを思い、心優しく逞しく成長しあう姿に感涙する先生達、温かな人の輪に育つ子ども達、そんな二葉が好きです。【園長】